

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社ユニコーン
大阪市中央区大手通 1-1-2
TEL.06-6943-4560 FAX.06-6920-5311

いつも大変お世話になりありがとうございます。

急激に寒くなってきました。秋らしいお天気は一月くらいしか続かなかったように感じています。みなさまは、いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

先日、大阪中之島美術館へ行ってきました。昨年の2月に開館したこちらの美術館は、40年の構想を経てようやくオープンしたことで話題になっています。バブル期に買い集めた沢山の美術品を収蔵する美術館ができるという話は30年前に耳にしておりましたが、なにしろ大阪は財政難ですから、もう実現しないのだろうと思っておりまして、個人的には実現したことにびっくりでした！！オープン直後は混みあっているだろうし、少し落ち着いたら行ってみようかな～・・・なんて思っているうちにすっかり忘れてしまっていました。ターナーに導かれようやく足を運びました！

「テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ」と題したこの展覧会は、英国・テート美術館のコレクションより「光」をテーマに作品を厳選し、18世紀末の古い作品から現代の作品、絵画だけでなく、写真やインスタレーションや映像など、幅広い作品を展示していました。

光とは、何なのでしょう？目に見ることはできない、触ることもできない、あれば明るく、なければ暗くなる。プリズムを通すと7色のスペクトルに分かれる。そのようなあいまいなものを、絵画で、作品で、どのように表現するのか。どのように描くのか。光の表現を追求した作品は見ごたえたっぷりでした。

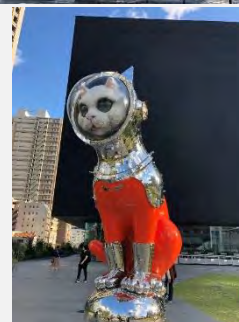
中でも一番気に入った作品は、ジョン・エヴァレット・ミレイの『露に濡れたハリエニシダ』です。朝の柔らかい光に包まれた森のなかで、ハリエニシダなどの植物が朝露に濡れてきらめいている。静けさのなかに、鳥の鳴き声が聞こえてきそうな、森の中の湿度まで感じられるような、そんな作品でした。

もうひとつは、会場の1番初めに展示している作品、ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナーの『陽光の中に立つ天使』です。光の中にあらわれた天使のすがたに、救いを感じる作品です。光をあらわすには反対にある闇が必要です。ターナーの作品は、ただ暗く塗るということではなく、恐れや絶望を描くことで、光をさらに際立たせているようでした。

そして、火山の絵2点、ジョゼフ・ライト・オブ・ダービーの「噴火するヴェスヴィオ山とナポリ湾の島々を臨む眺め」とジョン・マーティンと「ポンペイとヘルクラネウムの崩壊」は、体の奥底から恐れや怒りや絶望などといった感情が沸き上がり、ぶるぶると震えがくるような迫力のある作品で、こちらもすごかったです。芸術の秋を堪能した一日でした。

今年も暑い～とか寒い～とか言っているうちに、あっという間に12月の足音が聞こえ始めました。

みなさまますますお忙しいかと存じますが、どうぞお身体をお大事に、暖かく心地よく健やかに過ごしてくださいませ。



オシャレな建物の前で
シブス・キャットがお出迎え



露に濡れたハリエニシダ
多くの作品が撮影OKになっていました。



最後に登場するこちらもすてきでした！
オラファー・エリアソン『星くずの素粒子』

今月も最後まで読んで頂きまして、
ありがとうございました。
来月もよろしく願いいたします。